

土佐ジロー農家を救えプロジェクト！！

～三味一体カレーパン feat.土佐ジロー～

高知農業高校畜産総合科3年生の『課題研究』という授業の中では、今まで学んできた酪農や養豚、養鶏、畜産加工の分野に分かれて、自分たちで課題とするテーマを決めて、その解決に向けた取組みを年間とおして行っています。

2020年から流行している新型コロナウイルス感染症の影響で私たちの高校生活は大きく変わりました。2ヵ月間の休校、体育祭、修学旅行などの学校行事もすべて中止になり、悔しい思いをしてきました。きっと私たちのように悔しく、つらい思いをしている人はたくさんいるのではないかと思い、加工班では、農業高校生として何かできることはないかと模索している中、土佐ジロー農家さんと交流する機会があり、農家の厳しい現状を学びました。それは、全国に緊急事態宣言が出され、土佐ジローの肉や卵を出荷している全国の道の駅、飲食店、ホテルなどが営業中止となり、販売できなかった卵は廃棄、肉在庫が残り、冷蔵庫に入らなくなってしまっている状態に陥ったというものでした。畜産を学ぶものとして、何とか土佐ジローを助けたい、という思いで「土佐ジロー農家を救えプロジェクト」を発足しました。

商品を開発するにあたって、土佐ジローは高級食材であるため、消費拡大を目指すためには、だれでも買やすい商品を開発するべきと考えました。そこで、地元企業で多くの商品を開発しているコミベーカーリーさんに協力をお願いし、一緒に商品開発をすることになりました。協議していく中で、安価で、肉を大量消費できるカレーパンを開発することになり、肉の種類や大きさ、カレー、名前等を自分たちで考え、ミンチ肉がたくさん入った、甘さ控えめなバターチキンカレー味の「三味一体カレーパン feat.土佐ジロー」が完成しました。



カレーパンは、学校活動の中での販売に加え、土佐ジロー農家の直営店や商品開発を担ってくれたコミベーカーリーさんでも販売し、8月から12月までの5か月間で約6,500個を販売することができており、現在もその販売数を伸ばしています。また、高級鶏肉を手に取りやすい商品とすることができ、土佐ジローを身近なものに感じてもらえる地産地消の商品になりました。

高知が誇る土佐ジローをこの機会にぜひお召し上がりください。

